

総括：長門中世城館の調査を終えて

服部，英雄
くまもと文学・歴史館：館長

<https://hdl.handle.net/2324/1936960>

出版情報：2017-03. 山口県教育委員会
バージョン：
権利関係：

総括

長門中世城館の調査を終えて（要旨）

* 『山口県中世城館総合調査報告書――長門国編』 2017年掲載

城の造作の基本は、円錐である山頂を造成して平地を作り出す。山頂部の土を移動し、切り盛りして平面を確保する。そこに建物を建てて、風雨を避けた。十分な平地が得られない場合は、斜面に打ち込んだ柱によって、懸け造りoverhang styleの建物を建てた。もっとも必要なものは水だった。水の手（水の補給路）が城内に得られない場合は、城外の安全が担保された地区に確保した。

長門の海岸部の城は海岸堡であるが、肥中港のような朝鮮との交易港に立地する肥中城のような場合は、国際関係を意識した海岸堡の可能性はある。

長門の城の呼称には茶臼山が圧倒的に多い。形状が茶臼に似ていた。つまり削平された平坦地と斜度を強調する切り岸が、茶臼のように見えた。ほか唐櫃を意味するカロウト（カロト）山もある。同様であろう。火の山はのろし山に由来する。